

共に

特集

誰もが住みやすいまち

～「第5次塩尻市男女共同参画基本計画」に向けて～

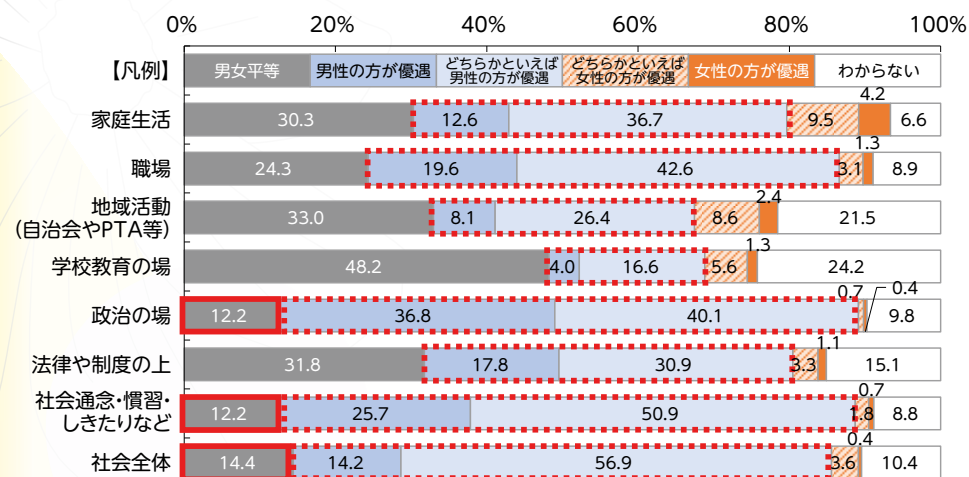
令和5年度 男女共同参画週間キャッチフレーズ
「無くそう思い込み、守ろう個性 みんなでつくる、みんなの未来。」

男女共同参画週間(毎年6月23日～29日)に合わせて選定されています

今年6月に開かれた主要7カ国(G7) 男女共同参画・女性活躍担当相の会合で日本だけ担当大臣が男性だったことが注目されました。会合に先駆け公表された「ジェンダーギャップ指数*」で、日本は145カ国中125位、政治は138位、経済は123位と後退しG7で最下位であったことから、男女格差の象徴かのような評判、批判を受けました。男女共同参画は女性だけが主張しても実現しないが、歴代の担当大臣が男性となればその指数に納得だったようです。日本で女性議員の少なさに増して、やはり今は政治や経済は男性議員、少子化は女性議員の担当分野と固定観念化されていることは否定できないのではないのでしょうか。世界から取り残されている分野におけるジェンダー平等に向けて大きな改革が迫られています。

*ジェンダーギャップ指数：世界経済フォーラムが政治・経済・教育・健康を調査した男女格差の指数です。

(図表1) 男女平等感



(令和4年 塩尻市男女共同参画アンケート結果より)

分野で男女の地位が平等かの回答には、(図表1) のようにすべての分野で男性が優遇され、平等ではないと感じているのが実情です。

アンケート結果からみえるもの、男女共同参画とは、第4次までの流れを踏まえて、働く女性の賃金格差、地域活動の状況に男女参画社会はどのようなものであってほしいのか、「第5次塩尻市男女共同参画基本計画」への期待を綴ってみました。

塩尻市生涯学習部
社会教育スポーツ課 共生推進係

塩尻市大門七番町3番3号
TEL：(0263) 52-0280 内線3135
FAX：(0263) 54-2705
E-mail：shakai@city.shiojiri.lg.jp

男女がともに活躍できる社会へ



内閣府
男女共同参画局

令和5年度 塩尻市
「豊かな心を育む市民の集い」を開催します

塩尻市では、人権意識の向上と、男女共同参画社会の実現を目指し、人権意識改革に努めています。今年8月、長野県で「パートナーシップ届出制度」が導入されました。またLGBT理解増進法が6月から施行されています。

そこで、性の多様性を理解し、性的少数者の方々の生きづらさを解消し、当事者との向き合い方を学ぶ機会となることを願い、講演会を計画しました。様々な人々の多様性を理解し、認め合いながら、人を大切にする心を育てて行くために、「豊かな心を育む市民の集い」を開催します。

○期 日 令和5年12月2日(土)

午後1時30分～4時(開場午後1時)

○場 所 レザンホール(中ホール)

○主 催 塩尻市・塩尻市教育委員会

○内 容

(1) 人権擁護委員会塩尻部会活動報告

(2) 人権啓発講演会

演題：「多様性とともにある社会へ」

講師：ダイバーシティ信州

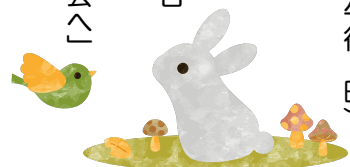
会長 小泉涼さん

○託 児

1歳以上から未就学児童までのお子様対象。無料で託児できます。(要予約)

○入場無料・・・(予約不要)

※手話通訳が付きます



おすすめブック(書籍)紹介

「男女格差後進国」の衝撃
無意識のジェンダーバイアスを克服する

治部れんげ 著 小学館

日本は男女格差が大きい、と実感せずに暮らしていることが日本が変わっていない一番の大きな原因。政府や経済界が本気で取り組んでわずか三年間で女性リーダーを増やした諸外国の取り組みを紹介しつつ「日本で男女格差が縮まらない理由」を考察、次世代のためにできることを提案。

子どもを守る言葉「同意」って何？
自分を守り、人を傷つけない「知恵と勇気」を

レイチェル・ブライアン 著 中井はるの 訳 集英社

子どもたちが自分の心と身体を大切にすることを知り、自分に向けて起こされたアクションに対して「いいよ」「いや」などの意思を表せることはとても大事。大切なのは、「同意する・同意しない」を確かめて、互いに尊重すること。このことを学んで来なかった多くの大人たちにも役に立つ1冊。世界的人気動画「お茶と同意」を作ったアニメーターの著書。

わたしはあかね」
みんなと同じがいいのかな？

サトシン 作 西村敏雄 絵 文溪堂

白猫母さんと、黒猫父さんから生まれたあかねこちゃんはいびり兄弟の中で一匹だけお母さんにも、お父さんにも似ていないの！優しい家族は大好きだけど、私らしさを分かってくれないのが悲しくてある日、家出を決行！誰が何と言おうと、わたしはわたしと強く生きる。あかねこちゃんはその後とてもハッピーな人生？じゃない猫生を送るのでした。

女性相談案内

電話相談・面接相談

「家庭内や職場等の人間関係のお悩みなど」
お気軽にご相談ください

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

☎0263-54-0783(直通)

※女性以外の方からの相談も対応します

編集後記

男女共同参画という言葉が、もっとポピュラーに男女平等やジェンダー平等のように。グローバル社会全世界から日本のジェンダーギャップの低さが顕著に示され、政府も女性版骨太方針2023で様々な施策を出し女性の活躍を推進している。北欧諸国に近くには、日本国民の意識改革は勿論のこと、政治・経済・教育・健康分野への積極的進出を期待。男らしさもう要らない。性差別ない、Aに「心」支配されない世の中を希求したいものです。(横山真)

コロナ禍で、男女の所得格差や生活困窮がより明らかになりました。「男は仕事、女は家庭の固定的役割分担意識での雇用慣行が根深く、女性は出産により正規職員を退職すると、希望しても再び正規職員での就労は難しい状況があります。性別にとらわれず共に活躍出来る社会に向け、育児支援や長時間労働の解消などを含めた様々な課題の改善が求められています。(小松洋子)

(吉江令子)

誰もが自分らしく生きるための権利に関する言葉の認知は高くなり、若い世代を中心に生活様式や働き方に対する考え方が変わりつつあります。古い固定観念を払拭し、希望に応じて家庭でも職場でも活躍できる社会にするためには、アンケートという形でも小さな思いも言葉も声にして表すことが大切だと感じました。



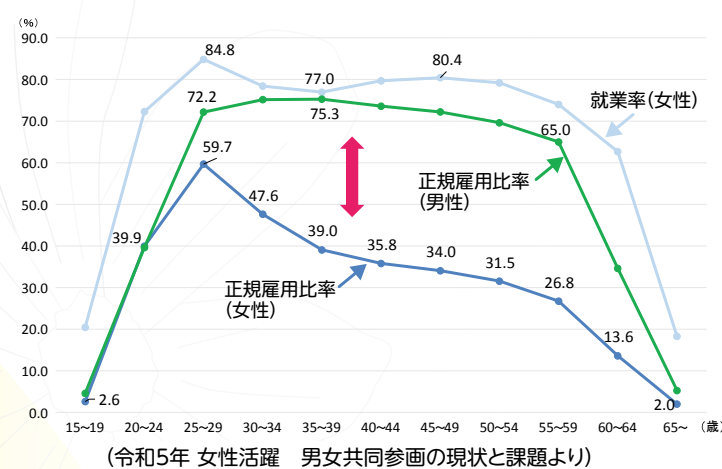
誰もが住みやすいまち



支え合う家族

我が国の長い歴史のなかで、ほとんどの女性は農林漁業や商業などの労働の中で生活をしていました。特に、20世紀前半までは男性と共に多くの女性が第一次産業に従事していました。明治末期から大正時代には、夫が雇用者（会社員・公務員など）、妻は家庭で育児や家事に専念するという家族が現れ、「男は仕事、女は家庭」の役割分業が始まりました。これが戦後の高度経済成長期から一般化し、21世紀に入っても意識は深く残っていました。

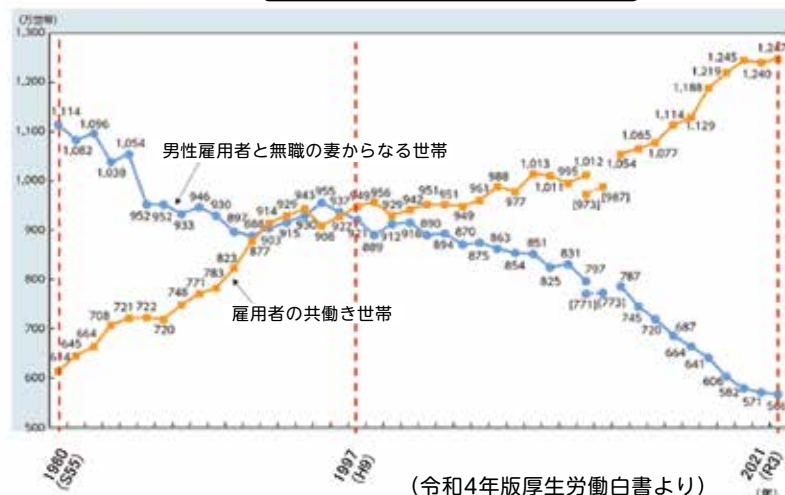
(図表4) L字カーブの状況(令和4年)



られます。共働き家庭で、家事や育児の8割程度を女性が担当している状況が浮かんできました。(図表5)

賃金格差や少子化対策は経済的な問題や社会での様々な慣行が影響しあっています。長時間労働の解消、保育・幼児教育の充実や、男性の家事育児参画の促進など、女性への具体的な負担軽減策が課題解決のため必要です。

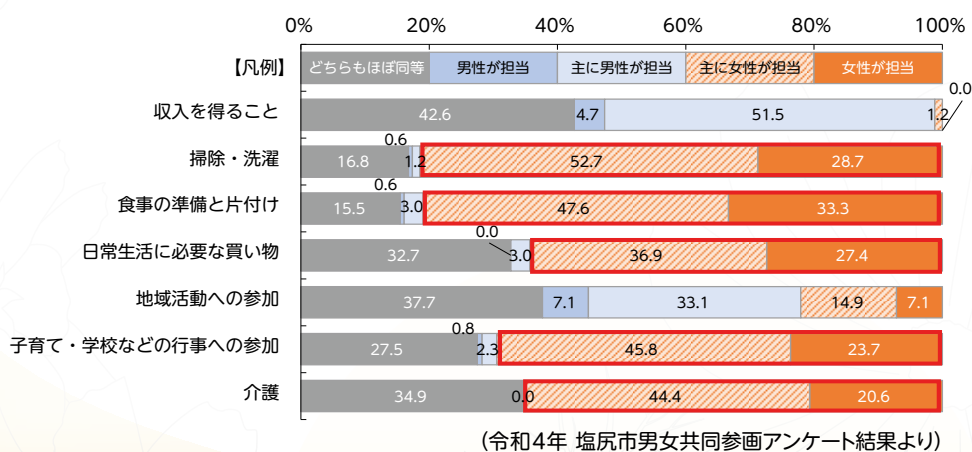
(図表3) 共働き等世帯数の推移



1980年以降、共働き世帯が年々増加傾向にあり、社会情勢等の変化により、(図表3)にあるように1997年以降は共働き世帯が専業主婦世帯を上回っています。2021年現在、共働き世帯はさらに増え1,247万世帯で、専業主婦世帯の2倍以上となりました。

しかし、雇用の男女差別や賃金格差が大きな課題となっています。(図表4)のように、女性活躍推進を背景に就業率は改善されているものの、その受け皿は非正規雇用です。このL字カーブという現象には、様々な問題が見受けられます。20代後半から女性の正規雇用比率が低下している要因の一つに、家庭内の役割の偏りが挙げ

(図表5) 家庭内の役割分担



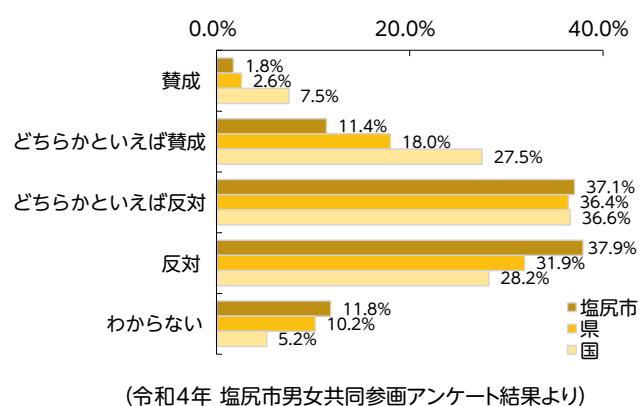
～「第5次塩尻市男女共同参画基本計画」に向けて～

一人一人の意識で進めよう

男女共同参画

アンケート結果によると、性別による役割の固定化には7割が反対しています。これは、前回調査(H26)より大きく増加し、さらに国や県の割合より高い傾向にあります。(図表2)様々な面で男性の優遇が感じられています。職場における待遇差(賃金・昇進・重要役職への登用等)を感じている割合は、6割を超えます。特に30代以下の女性はほぼ8割と強く感じていることがわかりました。職場と家庭との両立を願ったときに、育児・介護のための休暇・休業を取りやすい環境を望む声は多くあります。男性の家事育児参加に、自身や周囲の抵抗感が影響していることも要因ではないでしょうか。夫婦間のコミュニケーションを一層大事にしたいととともに、ぜひ、周囲の理解も求めたいものです。

(図表2) 性別による役割の固定化に対する考え



らに男女が均等に利益を享受し、共に責任を担う社会を推進するために制定されました。各新聞紙面に男女共同参画関連の記事が載らない日はありません。「育児女性の7割が家庭と仕事を両立」、「男性の育児休業取得、過去最高に」とは7月の記事。長野県では、男性の育休取得に関して予算化し、民間への啓発を進めており、また厚労省も育休支援策の強化を検討するとのこと、大いに期待したいものです。意識改革が進み性別に関わりなく個性と能力を発揮できる社会を切望します。

暮らしやすい地域へ

地域役員は、男性が就任するものという意識があり、その傾向は年代が上がるほど男性に強くみられます。一方、女性はその年代でも、活動の準備や片付けなど、実際は女性が活躍していることが多いと感じている事がわかりました。

ある地域では、区長等の大役選出の時は、各組からの推薦者を区の運営委員会で検討し、お願いに伺うのですが、女性の名前が挙がる事は滅多にないのです。例えば公民館活動を考えて、分館役員とは別に分館女性部が存在していて、男性と女性が一緒に活動してはいますが、分館の行事を企画、運営するのは男性役員で、女性はいつも補助的役割しか与えられていないように思えます。

役員の決め方一つ取っても、慣習に従う方が楽であり、新しいやり方の導入や改革はエネルギーが必要で面倒でもあります。高齢化で役員のなり手不足も深刻になりつつある今、地域活動においても性別で役職・仕事固定化されるのは時代に合わない気がします。

これからは、地域活動においても女性が政策決定の場で活躍する機会が増え、意見が反映され活かされることが大切になると思います。